

## 武蔵野市男女平等に関する意識調査報告書(平成 30 年 3 月)《抜粋》

## I. 調査概要

## 1. 調査の目的

武蔵野市では「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」に基づき、男女平等の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、男女平等社会の実現を目指すため、平成 30 年度末を目途に「武蔵野市第四次男女平等推進計画」の策定を予定している。その基礎資料とするため、この調査を実施した。

## 2. 調査の設計

- (1) 調査対象 武蔵野市内在住の満 18 歳以上の市民  
 (2) 対象者数 1,500 人  
 (3) 抽出方法 無作為抽出法  
 (4) 調査方法 郵送による無記名アンケート（郵送での調査票返送に加え、ウェブ調査画面にアクセスし回答する手段を用意）  
 (5) 調査期間 平成 29 年 10 月 2 日（調査票発送）～16 日（返送締切）  
 (6) 調査項目 質問項目 27 問＋プロフィール 6 問

## 3. 調査の内容

ブロック	質問項目 ★印は今回調査で追加した項目		
日頃の生活	問 1	理想の役割分担（性別役割分担）	
	問 2	現実の役割分担（性別役割分担）	
	問 3	日常生活における家事、育児、介護などの従事	
	問 4	未子の成長段階 -1 育児休業の取得の有無 -2 育児休業の未取得の理由	★
	問 5	介護休業の取得の有無 -1 介護休業の未取得の理由	★
	問 6	地域活動の参加の有無 -1 活動団体での課題	★
	問 7	地域活動をしていくために必要な環境や条件	
仕事とワーク・ライフ・バランス	問 8	男女がともに働きやすくなるために必要なこと	
	問 9	ワーク・ライフ・バランスの希望と現実	
セクシュアル・マイノリティ	問 10	性別についての悩みの有無	★
	問 11	セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るための方策	★
男女平等意識	問 12	男女平等などに関する言葉の認知度	★
	問 13	夫婦役割分担	★
	問 14	男女の地位の平等感	
	問 15	男女の役割や子育てに対する考え方	
	問 16	男女平等意識を育てるために学校教育に必要なこと	
	問 17	メディアが発信する表現	★
	問 18	災害対策に男女平等の視点を生かすために重要なこと	

ブロック	質問項目 ★印は今回調査で追加した項目		
男女間の暴力	問 19	親しい関係にある男女間の暴力の認識と経験 -1 相談の有無 -2 相談しなかった理由	★
	問 20	暴力を受けたときの相談機関の認知	
	問 21	男女間の暴力を防止するために必要な施策	
市の施策	問 22	武蔵野市の施策の認知	
	問 23	男女共同参画情報誌「まなこ」の特集記事として関心のあるテーマ	★
	問 24	男女平等の推進に関する条例について	★
	問 25	男女平等推進についての学習や支援活動を行う団体について	★
	問 26	男女平等社会を実現するために、市の施策に望むこと	
	問 27	男女平等や男女共同参画、市の施策についての意見（自由回答）	
回答者のプロフィール	F1	性別	
	F2	年齢	
	F3	居住地域	
	F4	職業	★
	F5	未既婚 -1 配偶者の職業	★
	F6	世帯構成	

#### 4. 回収結果

- (1) 対象者数 1,500人
- (2) 有効回収数 534人（女性：270人、男性：240人、その他：2人、性別無回答：22人）
- (3) 有効回収率 35.6%

#### 5. 報告書のみかた

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率（%）で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記している。
- (2) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- (3) 性別、年代別などは、無回答があるため、合計が全体と一致しない。なお、性別が「その他」の回答者はごく少数であることから全体に含め、グラフでの表記はしていない。
- (4) 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%を超えることがある。
- (5) 年代の表記にあたっては、調査票では5歳きざみであったが、10歳きざみとした（例「20～24歳」「25～29歳」を20代）。なお、「18～19歳」を10代、「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」を70代以上としている。
- (6) 集計表は、全体を10ポイント以上上回るものに ■■■■、10ポイント以上下回るものに ■■■■ の網かけをしている。
- (7) 集計の母数が10以下の数値になっているものについては、統計上の優位性が低いため、分析には利用していない。
- (8) 無回答は「不明」と表記している。

---

## 6. 主な調査結果

### 〔男女の役割分担〕(P19~P36)

- ▶ **男女の役割分担の理想については、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が女性で61.1%、男性で57.9%と最も高い。**
  - ・「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」の回答率が特に高いのは、女性の若年層と女性の正社員・役員、正職員である。
  - ・経年でみると、全体では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」という回答が平成14年よりは上昇しているが、平成24年よりは低下している。
  
- ▶ **男女の役割分担の現実については、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」は、女性で11.1%、男性で10.8%に止まる。**
  - ・「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」は21.7%、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している」は21.0%となっており、理想とは大きな隔たりがある。
  - ・平成14年からの変化をみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」については継続的に回答率が低下している。一方、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」については、平成14年よりは低下しているものの、平成24年よりは回答率は高くなっている（平成14年26.0%、平成24年15.7%）。
  
- ▶ **家事の実施率は、女性86.7%/男性66.3%。育児は女性26.3%/男性20.0%。介護・看護は女性10.0%/男性4.6%。**
  - ・家事にかかる時間は平日・休日ともに男性は女性の半分以下だが、育児・介護にかかる時間は、休日では男女の時間数は近い。

### 〔育児・介護休業〕(P37~P44)

- ▶ **育児休業の取得率は女性35.7%、男性2.5%。特に、女性の正社員・役員、正職員(83.3%)で取得率が高い。**
  - ・育児休業をとらなかった理由は、女性では「出産・育児を機に退職したから」が47.5%と最も回答率が高く、ついで「そのような休業の制度がなかったから」の32.5%。男性では「そのような休業の制度がなかったから」と「家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから」がともに43.6%。「出産・育児を機に退職したから」は、女性のパートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託などで高くなっている。
  
- ▶ **介護休業の取得率は、全体で4.7%、女性6.2%、男性2.6%と低い。**
  - ・介護休業をとらなかった理由は、全体では「そのような休業の制度がなかったから」の32.6%が最も高くなっている。「介護・看護を機に退職したから」という理由については、女性10.2%、男性1.5%と差が大きい。

## 〔地域活動〕(P45~P51)

### ▶地域活動への参加率は、女性 38.5%、男性 23.3%と女性が高い。

- ・活動領域としては「趣味、スポーツ、習い事、文化活動など」が、女性 24.1%、男性 12.9%で最も高くなっている。女性で次に高いのは「子育て関係の活動」の 14.1%、男性では「自治活動」の 5.0%となっている。

### ▶女性では「参加者の性別の偏り」についての回答が 30.8%。男性では、男女の役割の差についての回答が、女性と比較して多くなっている。

- ・男性では、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」(14.3%)、「男性は団体の長に就き、女性は補助的役割に就く慣行がある」(14.3%)、「女性が責任のある役職に就きたがらない」(10.7%)となっている。

### ▶男性が家事、育児、介護、地域活動に参加していくために必要なこととしては、女性では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が 55.9%、男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 43.3%で最も高くなっている。

- ・国の調査(「男女共同参画社会に関する世論調査(平成 28 年)」)と比較すると、全体の傾向は同じだが、武蔵野市の方が「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること」と「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」の2つについて順位が低くなっている。

## 〔ワーク・ライフ・バランス〕(P52~P60)

### ▶男女ともに働きやすくなるために必要なこととしては、男女ともに在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方を求める声が多い。女性では、育児や介護に対する職場の理解と協力への回答が続く。

- ・男女別にみると、「育児や介護をすることに対する職場の理解と協力を深めること」(女性 52.6%)、「保育サービスなどの子育て支援を充実すること」(女性 46.7%)など多くの項目で男性に比べて女性の回答率が高く、「在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方ができること」(男性 57.1%)、「長時間労働を容認する職場の雰囲気是正すること」(男性 51.7%)の2項目についてのみ男性の方が回答率が高い。

### ▶ワーク・ライフ・バランスについての希望では、仕事・家庭生活・個人の生活すべてを優先の回答率が高いが、現実には仕事優先が高い。男女別でみると、女性の希望では仕事・家庭生活・個人の生活すべて優先が高く、現実では女性は仕事と家庭生活優先、男性では仕事優先が高い。

- ・ワーク・ライフ・バランスについての男女の差をみると、希望では、女性の方が「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」の割合が高く(女性 36.7%、男性 28.3%)、一方、「『仕事』を優先」が低い(女性 1.1%、男性 5.4%)。現実では、「『家庭生活』を優先」(女性 19.5%、男性 6.2%)、「『仕事』と『家庭生活』を優先」(女性 27.9%、男性 21.9%)、「『仕事』を優先」(女性 26.0%、男性 47.8%)となっている。
- ・男性の 20 代では、ワーク・ライフ・バランスの希望で「『個人の生活』を優先」の回答率が高い。また、子どものいる男性は「『仕事』と『家庭生活』を優先」が高い。一方、女性で中高生以下の子どもがいる層では、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」が高くなっている。

- ・国の調査および東京都の「男女平等参画に関する世論調査（平成 27 年）」とワーク・ライフ・バランスについての希望への回答を比べてみると、希望においては、男女ともに、『『個人の生活』を優先』、『『家庭生活』と『個人の生活』を優先』、『『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて』について、国より都、都より市の方が回答率が高くなっている。
- ・一方、現実では、男女ともに、市よりも都、都よりも国の方が『『家庭生活』を優先』という項目への回答率が高くなっている。逆に、『『仕事』を優先』については、国より都、都より市の方が回答率が高くなっている。

### 〔セクシュアル・マイノリティ〕(P61~P63)

▶性の違和感について悩んだ人は 2.0%、周囲に悩んでいる人がいた比率 13.1%。

- ・女性の方が「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた」の回答率が高くなっている（女性 14.1%、男性 10.4%）。

▶セクシュアル・マイノリティの方の人権を守る方策としては、法律や制度の整備が必要という意見が最も多く、ついで学校教育、相談・支援体制の充実と続く。

- ・全体では「セクシュアル・マイノリティであっても不利な取り扱いをうけないよう法律や制度を整備する」が 49.8%と最も高く、ついで「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」47.2%、「相談・支援体制を充実させる」34.8%。これらの項目は女性の方が回答率が高い。

### 〔男女平等意識〕(P64~P96)

▶用語として認知率が高いのは「男女雇用機会均等法」(87.5%)、「ストーカー規制法」(81.8%)。

- ・女性の方が認知率が高いのは「セクシュアル・マイノリティ」(66.3%)、「ジェンダー」(63.7%)、「デート DV」(43.3%) などである。男性は「ワーク・ライフ・バランス」(65.8%) や「JK ビジネス」(60.8%)、「LGBT」(59.2%) など女性より認知率が高くなっている。
- ・若年層ほど全般的に用語の認知率が高い傾向が見られる。一方、男女では、用語ごとのばらつきはあるものの、全体としての認知率の差は見だしにくい。
- ・国の調査と比較すると、大きな差はないが、「男女雇用機会均等法」、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー」、「女性差別撤廃条約」については市の調査の方が認知率が高く、一方、「男女共同参画社会」、「女性活躍推進法」、「ポジティブ・アクション」については国の調査の方が認知率が高くなっている。

▶「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について、賛成側の回答 39.0%に対し、反対側の回答は 45.0%となっている。男女別にみると、女性では反対側の比率が高い一方で、男性では賛成側が若干高くなっている。

- ・同様の質問項目がある国の調査と比べてみると、市では、全体および女性で反対側の比率が高い。一方で、国では、全体と女性だけでなく、男性においても、若干ではあるが、反対側が高い。

▶男女が平等になっていると半数以上の人を感じているのは学校教育のみ。社会全体では70.1%の人が男性優遇と答えている。男女別では女性の方が男性優遇の回答率が高い。

- 全体で「男女の地位は平等になっている」の項目を比較してみると、最も高いのは「学校教育の場で」の54.3%で、ついで「法律や制度の上で」29.4%、「家庭生活の場で」28.7%、「地域社会で」27.3%、「職場で」19.3%。一方、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計でみると、「社会通念・習慣・しきたりなどで」(76.6%)、「政治の場で」(73.0%)、「社会全体では」(70.1%)の3項目では、男性優遇という回答が70%を超えている。
- 男女別に傾向をみると、全ての領域で、女性の方が（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた数値で）男性優遇と回答しており、また「男女の地位は平等になっている」の回答率が低い。
- 同様の質問項目がある国と東京都の調査と回答を比べてみると、武蔵野市より都、都より国の方が、「男女の地位は平等になっている」の回答率が高い傾向がみられる。

▶「結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は、「どちらかといえばそう思う」を含めて77.9%、「希望する者には夫婦別姓を認めても良い」は、「どちらかといえばそう思う」を含めて66.6%。また、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」は「どちらかといえばそう思う」を含めて49.8%と半数を下回る。

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計で比較すると、「結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない」(77.9%)、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」(66.6%)、「男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」(50.4%)となっている。

▶児童・生徒に男女平等の意識を育てるために必要なこととして、最も回答率が高いのは「個性や人権の尊重」の72.8%、ついで「男女の協力」64.8%、「男女の別のない生活・進路指導」54.1%が続く。

- 「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が72.8%で最も高く、ついで「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶこと」(64.8%)、「生活指導や進路指導に置いて、男女の別なく能力を生かせるよう配慮すること」(54.1%)と続いている。

▶メディア表現についての意見では「女性の容姿や若さの強調」が53.6%と回答率が高い。

- 全体では、「女性について、容姿や若さを強調している」が53.6%で最も高く、ついで「伝えたい内容と関係がないのに、女性の性的な側面を強調するなど行きすぎた表現が目立つ」(30.3%)と続いている。
- 女性で、「女性について、容姿や若さを強調している」という回答が60.0%と高い。男性では、「特に問題はない」の回答が28.8%となっている。

▶災害対策における女性の視点で最も重視されているのは避難所におけるプライバシー確保の76.0%。特に女性は82.2%と高い。

- ・「性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営を行えるようにする」が76.0%で最も回答率が高く、ついで「消防職員・消防団員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する」(43.1%)、「災害対応や復興において女性の視点が活かされるよう、女性リーダーを育成する」(41.6%)と続いている。
- ・女性で、「性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営を行えるようにする」(82.2%)、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する」(46.3%)の回答率が高い。

〔男女間の暴力〕(P97~P127)

▶暴力という認識が60%を超えているのは、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」、「平手で打つ」、「『誰のおかげで生活ができているんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」、「なぐるふりをしておどす」。一方、「大声でどなる」は、場合によるという認識。

- ・「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が高い項目を全体でみると、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」が73.0%で最も高く、ついで「平手で打つ」(65.0%)、「『誰のおかげで生活できているんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」(62.0%)、「なぐるふりをしておどす」(60.5%)などと続いている。一方、「大声でどなる」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(29.2%)より、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(56.4%)が、全項目の中で唯一高くなっている。
- ・「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみていくと、「平手で打つ」(女性64.4%、男性67.1%)、「配偶者等の外出などを制限する」(女性43.7%、男性45.0%)のみ男性の方が回答率が高く、それ以外は女性の方が上回っている。

▶暴力を受けた経験で最も回答率が高いのは「大声でどなる」の39.4%で、ついで「何を言っても長期間無視し続ける」が15.7%となっている。

- ・暴力を受けた経験(「何度もある」「1、2度ある」の合計)でみてみると、最も多いのは「大声でどなる」が39.4%で、ついで「何を言っても長期間無視し続ける」(15.7%)、「『誰のおかげで生活できているんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」(12.4%)と続く。
- ・男女別では、「配偶者等の外出などを制限する」(女性9.2%、男性8.0%)、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」(女性12.2%、男性3.8%)、「なぐるふりをしておどす」(女性8.2%、男性7.9%)、「生活費を十分に渡さない」(女性6.7%、男性4.2%)の4項目では女性の方が経験率が高く、「平手で打つ」(女性8.1%、男性11.7%)、「大声でどなる」(女性38.5%、男性41.6%)、「交友関係や電話・メールを細かく監視する」(女性5.2%、男性8.8%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(女性13.3%、男性18.7%)、「『誰のおかげで生活できているんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」(女性11.8%、男性13.7%)の5項目については男性の方が経験率が高い。

▶暴力を受けた経験がある人のうち、59.8%が「相談しようと思わなかった」、7.1%が「相談したかったが、できなかった」となっており、70%弱が相談していない。

- ・最も回答率が高かったのは「相談しようと思わなかった」の59.8%で、ついでかなり離れて「友人・知人・同僚に相談した」の13.8%、「家族・親族に相談した」の9.8%、「相談したかったが、できなかった」の7.1%と続く。「市の相談窓口や子ども家庭支援センターに相談した」は1.6%となっている。

▶相談しようと思わなかった理由の76.0%が「相談するほどのことではないと思った」。

- 全体で最も回答率が高いのは「相談するほどのことではないと思った」の76.0%で、ついでかなり離れて「自分にも悪いところがあると思った」の18.0%、「相談しても無駄だと思った」の15.6%、「自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った」の9.0%と続く。
- 女性で「自分にも悪いところがあると思った」(20.5%)、男性で「相談しても無駄だと思った」(18.1%)、「自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った」(10.8%)となっている。

▶相談窓口での認知率は、警察が55.6%と最も高く、市の法律相談の39.3%、子ども家庭支援センターの27.9%が続く。

- 全体で最も高かったのは「警察」の55.6%で、ついで「市の法律相談」の39.3%、「子ども家庭支援センター」の27.9%、「市の人権相談」の16.7%と続いている。
- 女性では「子ども家庭支援センター」が33.7%、「市のひとり親相談」が21.1%となっている。

▶男女間の暴力を防止するために必要な施策として最も回答率が高かったのは「窓口を増やすなどの条件整備」の49.6%で、ついで「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発」の44.2%。

- 最も高かったのは「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」の49.6%で、ついで「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」の44.2%、「被害者に対する自立支援などを行う」の43.6%、「被害者を一時的に保護する施設を増やす」の42.5%と続く。
- 女性では「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」(49.3%)、「被害者に対する自立支援などを行う」(48.9%)、「住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する」(44.1%)となっている。
- 平成29年調査で、平成20年および平成24年の過去調査双方よりも回答が増えているのは(平成29年調査で新たに追加された選択肢を除くと)、「加害者に対する再発防止教育を行う」、「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」の2つとなっている。

〔市の施策〕(P128~P154)

▶市の施策で認知率が最も高かったのは「男女平等推進情報誌『まなこ』」の26.0%。次に認知率が高いのは、「聞いたことがある」まで含めれば「武蔵野市男女共同参画フォーラム」の24.5%、「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の23.7%が続く。

- 「内容まで一応知っている」「聞いたことがある」の合計では「男女平等推進情報誌『まなこ』」が26.0%と認知率が最も高く、ついで「武蔵野市男女共同参画フォーラム」24.5%、「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」23.7%と続いている。男女別では女性の方が全体的に認知率が高い。



▶『まなこ』の記事テーマとして最も関心が高かったのは「ワーク・ライフ・バランス」の36.9%。ついで「ひとり親支援、子どもの貧困」、「男性の家事・育児・地域活動参加」が続く。

- 全体でもっとも高かったのは「仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス」の36.9%で、ついで「ひとり親支援、子どもの貧困」の28.1%、「男性の家事・育児・地域活動参加」の23.8%と続いている。
- 女性では「仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス」(39.6%)が高く、男性との比較では「女性のためのキャリアプラン、起業、再就職支援」(29.6%)、「女性の視点からみた防災」(23.0%)などが15ポイント程度上回っている。男性では、「男性の家事・育児・地域活動参加」(28.3%)、「男女平等、人権、ジェンダー」(24.2%)などが、女性との比較で7ポイント程度上回っている。

▶「条例ができたことはよいことだ」については、「どちらかといえばそう思う」まで含めると83.0%と回答率が高く、「関連のパンフレットを読みたい」も50%を超える。一方、「関連のセミナー等への参加意向」は18.3%となっている。

- 「武蔵野市に男女平等の条例ができたことはよいことだ」については、「そう思う」54.5%、「どちらかといえばそう思う」28.5%の合計83.0%が「思う」と回答している。男女別では、女性の方が「思う」の回答率が高い。
- 「(条例)関連のパンフレット等があったら読んでみたい」では、「そう思う」20.0%、「どちらかといえばそう思う」37.5%の合計57.5%が「思う」と回答している。男女別では、女性の方が「思う」の回答率が高い。
- 「(条例)関連のセミナーやワークショップがあったら参加してみたい」の合計は18.3%となっている。

▶男女平等推進に関する団体への参加意向は12.0%、ボランティア実施意向は10.7%。

- 「男女平等に関して支援活動をしたり、相互の助け合いをしたり、学習活動をしたりする団体が地域にあったら入ってみたい」については「そう思う」2.6%、「どちらかといえばそう思う」9.4%となっており、「思う」の合計は12.0%となっている。
- 「武蔵野市が男女平等推進の施策検討や事業を行う際に、市民委員や事業実施の際のボランティア委員などとして協力してみたい」では、「そう思う」1.7%、「どちらかといえばそう思う」9.0%となっており、「思う」の合計は10.7%となっている。

▶男女平等社会を実現するために市に望む施策では「保育・介護制度の充実」が54.7%で最も回答率が高く、ついで「学校教育」(38.2%)、「女性のキャリアアップ、起業、就業支援」(31.5%)が続く。

- 全体では「保育・介護制度の充実」が54.7%で最も高く、ついで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」38.2%、「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」31.5%と続いている。
- 女性では「保育・介護制度の充実」(57.4%)、「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」(40.0%)となっている。男性では、「男女平等に関する相談窓口の充実」(30.8%)、「ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実」(27.9%)、「男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実」(24.2%)などが、女性との比較で高くなっている。

※集計結果の数字は%をあらわしている

※性別が「その他」の回答者はごく少数のため記載していない

## 「平成29年度武蔵野市男女平等に関する意識調査」調査票

### 〈記入にあたってのお願い〉

- 同居のご家族ではなく、対象（本調査票送付の宛名）となったご本人がお答えください。
- 質問によって、○印をつける数を「1つ」「いくつでも」などと指定していますので、ご確認の上、ご回答ください。また、「その他」にあてはまる場合は、（ ）内に具体的にその内容をご記入ください。

### ■ あなたご自身について

(F1) 性別	1. 男性 44.9	2. 女性 50.6	3. その他 0.4	不明 4.1	
(F2) 年齢			全体	女性	男性
	1. 18～19 歳		0.9	0.4	1.7
	2. 20～24 歳		3.0	2.2	3.8
	3. 25～29 歳		4.9	3.0	7.5
	4. 30～34 歳		7.3	8.1	7.1
	5. 35～39 歳		7.1	6.7	8.3
	6. 40～44 歳		9.6	11.1	8.8
	7. 45～49 歳		8.6	10.7	7.1
	8. 50～54 歳		8.4	8.5	8.3
	9. 55～59 歳		8.6	8.1	9.2
	10. 60～64 歳		6.9	7.4	7.1
	11. 65～69 歳		9.6	9.6	10.0
	12. 70～74 歳		9.0	8.5	8.8
	13. 75～79 歳		6.6	5.9	5.8
	14. 80 歳以上		9.6	9.6	6.7
	不明		0.0	0.0	0.0
(F3) お住まいの町名			全体	女性	男性
	1. 吉祥寺東町		8.2	8.9	8.3
	2. 吉祥寺南町		7.9	8.1	6.3
	3. 御殿山		4.1	3.7	4.6
	4. 吉祥寺本町		6.4	5.9	7.1
	5. 吉祥寺北町		11.4	11.9	11.3
	6. 中町		4.9	6.7	3.3
	7. 西久保		6.2	5.2	7.1
	8. 緑町		5.8	5.2	6.7
	9. 八幡町		8.4	7.8	9.2
	10. 関前		11.8	13.0	10.8
	11. 境		9.6	8.5	10.8
	12. 境南町		9.0	9.3	8.3
	13. 桜堤		6.4	5.9	6.3
	不明		0.0	0.0	0.0

(F4) 職業		全体	女性	男性	
	1. 自営業主（家族従業員を含む）、自由業	10.9	9.3	12.5	
	2. 正社員・役員、正職員	35.8	22.6	52.9	
	3. パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	15.0	23.3	6.3	
	4. その他	2.2	1.9	2.5	
	5. 学生	2.6	1.5	4.2	
	6. 家事専業（主婦、主夫）	17.6	31.9	0.0	
	7. リタイア、その他無職 不明	15.7 0.2	9.3 0.4	21.7 0.0	
(F5) 婚姻の有無		全体	女性	男性	
	1. 未婚	21.0	20.0	22.9	
	2. 有配偶者（事実婚含む）	66.7	63.3	71.3	
	3. 離別・死別	11.6	15.2	5.8	
	不明	0.7	1.5	0.0	
	(2. と答えた方に)				
	(F5-1) 配偶者の職業				
	1. 自営業主（家族従業員を含む）、自由業	23.6	19.3	29.2	
	2. 正社員・役員、正職員	28.1	46.2	10.5	
	3. パートタイム、アルバイト派遣社員、嘱託など	11.8	5.8	17.5	
	4. その他	0.8	1.2	0.0	
	5. 学生	0.3	0.6	0.0	
	6. 家事専業（主婦、主夫）	18.5	4.7	32.7	
7. リタイア、その他無職 不明	14.9 2.0	19.9 2.3	8.2 1.8		
(F6) 世帯構成		全体	女性	男性	
	1. ひとり暮らし	15.9	18.5	12.9	
	2. 夫婦のみ	31.1	29.3	32.5	
	3. 親と未婚の子ども（たち）	39.3	38.1	41.7	
	4. 親と子ども夫婦	2.2	2.6	1.7	
	5. 親と子どもと孫	3.4	2.6	3.8	
	6. その他 不明	7.7 0.4	8.1 0.7	7.5 0.0	

## ■ 日頃の生活について

### 問 1

あなたの理想として、男女の仕事と家事・育児・介護の役割は、この中のどれがもっとも望ましいと思いますか。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する	15.4	12.2	17.9
2. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する	5.6	3.0	9.2
3. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する	59.7	61.1	57.9
4. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに男性が分担する	0.4	0.7	0.0
5. 女性が仕事、男性が家事・育児・介護を分担する	0.0	0.0	0.0
6. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・ 介護サービスによってまかなう	9.2	11.5	7.1
7. わからない	6.4	7.0	5.4
その他	1.3	1.5	1.3
不明	2.1	3.0	1.3

### 問 2

それでは、あなたのご家庭では、現在、仕事と家事・育児・介護の役割分担をどのようにしていますか。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している	21.7	17.8	27.1
2. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している	21.0	21.5	21.7
3. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している	10.7	11.1	10.8
4. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに男性が分担している	0.7	0.4	1.3
5. 女性が仕事、男性が家事・育児・介護を分担している	0.6	0.4	0.8
6. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・ 介護サービスを利用している	0.2	0.0	0.4
7. 分担するような相手はいない	15.5	15.2	15.4
8. どれにもあてはまらない	27.2	30.0	21.3
不明	2.4	3.7	1.3

### 問 3

あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護・看護をしていますか。(それぞれについて○は1つ)

また、している場合は、どの程度時間をかけているかを合わせてお答えください。

※30分単位でご記入ください。(記入例：30分→0.5時間、1時間30分→1.5時間)

【家事】(食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れ、園芸など)

	全体	女性	男性
1. している	77.5	86.7	66.3
2. していない	18.5	7.0	32.1
不明	3.9	6.3	1.7

家事の1日の平均時間 平日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	13.3	24.6	18.4	13.5	7.0	5.3	3.6	1.2	3.6	9.4
女性	3.4	19.2	19.7	19.2	11.1	8.5	5.6	2.1	6.0	5.1
男性	29.6	35.2	15.1	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	15.1

家事の1日の平均時間 休日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	4.8	17.6	18.6	15.7	7.2	6.3	4.6	1.2	3.4	20.5
女性	0.9	9.8	12.8	18.8	12.4	9.4	7.3	2.1	5.6	20.9
男性	10.7	31.4	27.7	10.7	0.6	2.5	0.0	0.0	0.6	15.7

【子育て】(身の回りの世話、付き添い、送迎移動など)

	全体	女性	男性
1. している	22.3	26.3	20.0
2. していない	22.7	22.6	22.1
3. 該当しない(育児の対象となる家族はいない)	50.7	44.4	56.3
不明	4.3	6.7	1.7

子育ての1日の平均時間 平日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	24.4	24.4	12.6	10.9	7.6	6.7	0.8	0.0	4.2	8.4
女性	8.5	19.7	16.9	15.5	12.7	9.9	1.4	0.0	7.0	8.5
男性	47.9	31.3	6.3	4.2	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	8.3

子育ての1日の平均時間 休日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	6.7	11.8	12.6	10.9	5.0	6.7	10.9	1.7	10.9	22.7
女性	5.6	11.3	9.9	5.6	8.5	7.0	8.5	2.8	11.3	29.6
男性	8.3	12.5	16.7	18.8	0.0	6.3	14.6	0.0	10.4	12.5

【介護・看護】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

	全体	女性	男性
1. している	7.5	10.0	4.6
2. していない	29.0	31.5	26.7
3. 該当しない（介護・看護の対象となる家族はいない）	59.0	51.5	67.1
不明	4.5	7.0	1.7

介護・看護の1日の平均時間 平日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	15.0	20.0	12.5	2.5	2.5	7.5	0.0	0.0	10.0	30.0
女性	7.4	18.5	14.8	3.7	3.7	11.1	0.0	0.0	11.1	29.6
男性	36.4	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2

介護・看護の1日の平均時間 休日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	5.0	7.5	5.0	20.0	2.5	10.0	2.5	0.0	10.0	37.5
女性	3.7	7.4	0.0	22.2	3.7	11.1	0.0	0.0	11.1	40.7
男性	9.1	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	36.4

問4

あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。いらっしゃるとすれば、一番下のお子さんは次のどの段階にあたりますか。（○は1つ）

	全体	女性	男性
1. 1歳未満	2.1	1.1	3.3
2. 1～2歳	3.0	2.2	4.2
3. 3歳～小学校入学前	5.4	7.4	3.8
4. 小学生	5.8	5.9	6.3
5. 中学生	4.3	3.7	5.4
6. 高校生	2.8	3.3	2.5
7. 短大・各種学校・大学生など	3.4	3.7	3.3
8. 学校教育終了	25.8	26.3	25.0
9. 子どもはいない →問5へ	38.2	34.4	42.5
不明	9.2	11.9	3.8

（問4で1.～8.と答えた方に）

問4-1

あなたは、育児休業を取得したことがありますか。（○は1つ）

	全体	女性	男性
1. 育児休業を取得したことがある →問5へ	10.0	17.2	2.3
2. 育児休業を取得したことがない	86.5	79.3	93.8
不明	3.6	3.4	3.9

(問 4-1 で 2. と答えた方に)

**問 4-2** あなたが育児休業をとらなかった理由の中であてはまるものをお答え下さい。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 働いていなかったから	27.6	54.8	1.7
2. 家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから	23.0	4.3	42.1
3. 自分の仕事や出世に支障がでるから	5.8	0.0	11.6
4. 取得すると収入が下がるから	4.1	1.7	6.6
5. 出産・育児を機に退職したから	9.1	19.1	0.0
6. 休業の制度があることを知らなかったから	1.2	0.9	1.7
7. そのような休業の制度がなかったから	28.8	14.8	39.7
8. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったから	5.8	1.7	9.9
9. 制度はあったが、就労期間、就労時間が短いなど、育児休業の対象と ならなかったから	0.8	0.0	1.7
10. 自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから	9.9	11.3	8.3
11. その他	3.7	4.3	3.3
不明	5.8	4.3	7.4

**問 5** あなたは、介護休業を取得したことがありますか。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 介護休業を取得したことがある →問 6へ	1.5	1.9	0.8
2. 介護休業を取得したことがない	93.3	91.9	95.8
不明	5.2	6.3	3.3

(問 5 で 2. と答えた方に)

**問 5-1** あなたが介護休業をとらなかった理由の中であてはまるものをお答え下さい。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 介護の対象となる家族がいなかったから	59.8	56.9	64.8
2. 働いていなかったから	8.8	15.3	1.7
3. 家庭内に介護をしてくれる人が別にいたから	4.8	4.0	6.1
4. 自分の仕事や出世に支障がでるから	1.2	1.2	1.3
5. 取得すると収入が下がるから	1.4	1.6	1.3
6. 介護・看護を機に退職したから	1.8	2.4	0.4
7. 休業の制度があることを知らなかったから	1.4	1.6	0.9
8. そのような休業の制度がなかったから	9.6	8.9	10.0
9. 職場に介護休業を取りにくい雰囲気があったから	1.8	1.2	2.6
10. 制度はあったが、就労期間、就労時間が短いなど、介護休業の対象と ならなかったから	1.0	1.2	0.9
11. 自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから	7.6	7.7	7.4
その他	5.6	5.6	5.2
不明	8.2	7.3	9.6

**問 6**

あなたは市や地域での活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 子育て関係の活動（PTA、子ども会、子どもの見守りなど）	9.0	14.1	3.8
2. 自治活動（コミュニティセンター、自治会、商店会、防犯、環境など）	7.3	8.5	5.0
3. 高齢者、障害者、在住外国人などの支援活動、ボランティア	4.7	6.3	3.3
4. 趣味、スポーツ、習い事、文化活動など	18.4	24.1	12.9
5. 防災活動や震災への準備活動など	4.1	4.4	3.8
6. その他	1.9	1.1	2.5
7. 参加していない	66.7	57.8	76.3
不明	2.1	3.7	0.4

(問6で1.～6.と答えた方に)

**問 6-1**

あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男性は団体の長に就き、女性は補助的役職に就く慣行がある	8.4	4.8	14.3
2. 女性が責任のある役職に就きたがらない	6.0	3.8	10.7
3. 活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある	10.8	7.7	14.3
4. 活動している参加者の性別に偏りがある	26.9	30.8	19.6
5. 地域活動と育児・介護・仕事との両立に理解のある人が少ない	3.6	4.8	0.0
6. 特にない	55.1	55.8	57.1
不明	4.8	3.8	3.6



## 問7

今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	45.9	53.7	38.3
2. 男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	16.3	17.4	13.8
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	49.3	54.4	43.3
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	24.3	25.9	21.7
5. 社会の中で、男性による家事・育児・介護などについても、その評価を高めること	40.6	47.0	34.2
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	47.9	55.9	39.6
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの在宅勤務をはじめとする多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	38.4	38.9	39.2
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	15.9	16.7	14.6
9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	19.9	18.5	20.4
10. わからない	6.7	5.2	7.9
11. 特に必要なことはない	5.1	2.2	6.3
12. その他	0.9	1.1	0.8
不明	3.6	4.8	2.1

## ■ 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

※ワーク・ライフ・バランスとは、「誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持てる」よう、仕事と生活を調和させていく考え方のことです。

### 問8

これから男女がともに働きやすくなるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 長時間労働を容認する職場の雰囲気是正すること	49.6	47.4	51.7
2. 在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方ができること	54.3	53.3	57.1
3. 仕事とプライベートの両立に理解がある上司がいること	42.9	44.1	42.1
4. 女性が働くことに対する家族や職場の理解と協力を深めること	36.3	42.2	29.2
5. 育児・介護休業などの休業中に所得保障があること	41.8	43.7	40.4
6. 育児や介護で退職した時、退職時と同じ条件で復職できる ジョブ・リターン制度がある職場が増えること	40.4	42.6	39.2
7. 育児や介護をすることに対する職場の理解と協力を深めること	46.6	52.6	41.7
8. 保育サービスなどの子育て支援を充実すること	42.9	46.7	40.8
9. 介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	40.8	45.6	35.0
10. 育児や介護について地域での助け合いが進むこと	22.3	25.9	18.3
11. 再就職・再チャレンジに関する施策が充実すること	29.8	32.6	27.9
12. 「男は仕事、女は家事・育児」といった性別による固定的な役割 分担意識を変えいくこと	39.9	44.4	34.6
13. その他	3.4	3.0	3.8
14. わからない	4.5	3.3	4.2
不明	2.6	4.4	0.8

### 問9

あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

(1)「希望」としての優先度について、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つだけ選び、回答欄に数字を記載してください。

	全体	女性	男性
1. 「仕事」を優先	3.2	1.1	5.4
2. 「家庭生活」を優先	12.5	13.0	12.1
3. 「個人の生活」を優先	11.0	10.7	11.3
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先	11.6	7.4	16.7
5. 「仕事」と「個人の生活」を優先	4.9	4.8	5.0
6. 「家庭生活」と「個人の生活」を優先	17.2	18.1	15.8
7. 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて 不明	32.0	36.7	28.3
	7.5	8.1	5.4

(2)「現実」としての優先度について、あなたの現実に最も近いものをこの中から1つだけ選び、回答欄に数字を記載してください。

※現在お仕事をされていない方は希望のみお答えください。

	全体	女性	男性
1. 「仕事」を優先	37.8	26.0	47.8
2. 「家庭生活」を優先	12.0	19.5	6.2
3. 「個人の生活」を優先	4.7	3.9	5.1
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先	24.6	27.9	21.9
5. 「仕事」と「個人の生活」を優先	6.7	6.5	6.7
6. 「家庭生活」と「個人の生活」を優先	3.5	2.6	3.9
7. 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて不明	7.6	9.1	6.7
	2.9	4.5	1.7

## ■ セクシュアル・マイノリティについて

※セクシュアル・マイノリティとは、「からだの性」と「自分が認識する性」が一致しない人や、恋愛感情などの性的な意識が同性ないしは両性に向かう人（同性愛者、両性愛者）などを総称した言葉です。

**問 10** あなたは今までに、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなど、性について悩んだことがありますか。または、周囲で悩んでいる人はいましたか。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 悩んだことがあり、周囲にも悩んでいる人がいた	1.3	1.1	1.3
2. 悩んだことはあるが、周囲に悩んでいる人はいなかった	0.7	0.4	0.8
3. 悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた	11.8	14.1	10.4
4. 悩んだことはなく、周囲にもいなかった	83.7	80.4	86.7
不明	2.4	4.1	0.8

**問 11** あなたは、セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るために、特にどのような方策が必要だと思われますか。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 正しい理解を深めるための教育を学校で行う	47.2	50.7	44.6
2. 正しい理解を深めるための啓発活動を行政が行う	26.6	28.9	25.4
3. 相談・支援体制を充実させる	34.8	36.7	34.2
4. セクシュアル・マイノリティであっても不利な取り扱いをうけないよう法律や制度を整備する	49.8	54.4	46.3
5. その他	3.0	2.6	3.3
6. 特に必要なことはない	7.3	4.8	9.2
7. わからない	15.4	12.6	16.3
不明	1.5	2.2	0.8

## 男女平等意識について

問 12

以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。  
(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女共同参画社会	61.2	57.0	67.1
2. 女性差別撤廃条約	39.0	38.5	42.1
3. 男女雇用機会均等法	87.5	86.7	90.4
4. 女性活躍推進法	33.0	31.9	35.8
5. 配偶者暴力防止法	35.0	38.5	32.1
6. ストーカー規制法	81.8	82.6	82.5
7. LGBT	51.9	48.1	59.2
8. セクシュアル・マイノリティ	63.7	66.3	63.3
9. デートDV	37.6	43.3	33.3
10. メディア・リテラシー	27.2	25.2	31.3
11. JKビジネス	54.1	50.4	60.8
12. イクボス	21.2	18.9	24.6
13. ケアボス	7.1	5.6	9.6
14. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	10.9	11.1	10.0
15. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	60.9	63.7	62.5
16. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	57.1	51.9	65.8
17. リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）	5.8	7.0	5.0
18. セクシュアル・ライツ（性に関する権利）	9.7	9.6	10.0
19. 上記の中で知っている言葉はない	2.4	2.2	2.1
不明	3.0	3.3	1.3

問 13

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうか考えますか。この中から1つだけお答えください。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 賛成	6.2	5.2	6.7
2. どちらかといえば賛成	32.8	27.8	37.1
3. どちらかといえば反対	22.7	27.0	17.9
4. 反対	22.3	22.6	23.8
5. わからない	13.3	13.3	13.3
6. その他	1.1	1.5	0.8
不明	1.7	2.6	0.4

問 14

あなたは次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。  
 (それぞれについて○は1つ)

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明
記入例	(1) 家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6	
(1) 家庭生活の場で	全体	7.3	36.0	28.7	12.0	2.1	8.2	5.8
	女性	10.0	41.5	23.0	10.0	1.1	6.7	7.8
	男性	3.3	30.4	35.8	14.6	2.9	10.0	2.9
(2) 職場で	全体	17.0	41.8	19.3	3.2	0.7	10.5	7.5
	女性	19.3	41.5	14.4	1.9	0.0	12.2	10.7
	男性	12.9	44.2	25.8	5.0	1.7	7.9	2.5
(3) 学校教育の場で	全体	1.5	12.0	54.3	2.6	0.9	21.2	7.5
	女性	1.1	13.7	50.4	1.5	0.7	23.0	9.6
	男性	1.3	9.2	60.4	4.2	1.3	20.0	3.8
(4) 地域社会(町会、自治会など)で	全体	3.9	30.9	27.3	5.4	0.7	24.9	6.7
	女性	4.8	33.7	21.5	2.6	1.1	26.7	9.6
	男性	2.5	27.5	35.4	8.8	0.0	23.8	2.1
(5) 政治の場で	全体	31.1	41.9	12.4	1.5	0.7	6.4	6.0
	女性	36.3	39.6	6.3	0.4	0.0	8.5	8.9
	男性	26.7	44.6	17.9	2.9	1.7	4.6	1.7
(6) 法律や制度の上で	全体	8.1	36.5	29.4	5.4	1.3	12.4	6.9
	女性	11.1	38.5	19.3	3.3	0.0	17.4	10.4
	男性	4.6	36.7	39.6	8.3	2.9	6.3	1.7
(7) 社会通念・習慣・しきたりなどで	全体	22.7	53.9	8.8	1.7	0.4	6.4	6.2
	女性	27.8	50.7	4.4	0.7	0.0	7.8	8.5
	男性	16.7	59.2	13.8	2.5	0.8	5.0	2.1
(8) 社会全体では	全体	12.4	57.7	12.9	2.2	0.4	8.4	6.0
	女性	16.3	57.4	8.1	0.7	0.0	9.3	8.1
	男性	7.5	60.0	17.9	4.2	0.8	7.1	2.5

**問 15**

次にあげるような考え方について、あなたはどのように思いますか。  
(それぞれについて○は1つ)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	あまりそ うは思わ ない	そうは 思わない	不明
(1) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい	全体	17.8	32.0	25.1	11.4	11.2	2.4
	女性	10.0	30.4	28.9	15.6	11.5	3.7
	男性	25.8	33.8	20.8	7.9	10.8	0.8
(2) 結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない。	全体	45.5	32.4	12.0	5.8	1.5	2.8
	女性	47.8	33.0	11.9	3.0	0.4	4.1
	男性	43.3	31.3	12.9	9.2	2.5	0.8
(3) 希望する者には夫婦別姓を認めてもよい	全体	41.9	24.7	13.1	8.2	8.8	3.2
	女性	44.4	25.9	13.3	5.6	6.3	4.4
	男性	41.3	23.8	13.8	10.4	10.0	0.8
(4) 男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい	全体	30.0	20.4	22.8	10.3	13.3	3.2
	女性	32.6	21.9	23.3	7.8	10.0	4.4
	男性	27.9	19.6	23.3	12.9	15.4	0.8

**問 16**

児童・生徒の男女平等の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思  
いますか。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女が協力して物事を進める必要性を学ぶこと	64.8	64.4	63.8
2. ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと	72.8	73.7	71.7
3. 人権尊重の視点に立った性教育を充実させること	38.8	39.3	38.8
4. 家庭や家族の多様なありかたについて学ぶこと	52.6	55.2	50.4
5. 生活指導や進路指導に置いて、男女の別なく能力を生かせるよう配慮すること	54.1	59.3	47.5
6. 性に関する相談の機能を充実させること	24.0	24.8	23.3
7. デートDV（交際相手からの暴力）や性犯罪の加害者や被害者となることを防ぐための教育を早期から行うこと	33.1	34.8	30.4
8. 性産業に巻き込まれないための教育を早期から行うこと	35.8	38.5	33.3
9. 子どもの健全な育成に向けて※メディア・リテラシーの能力を高めること	35.0	35.2	35.4
10. 教職員を対象とした男女平等の研修を実施すること	34.3	30.7	36.3
11. 管理職（校長や副校長）に女性を増やしていくこと	25.7	28.1	22.9
12. その他	4.7	4.1	5.8
13. わからない	4.5	3.3	5.4
不明	2.8	4.8	0.4

※メディア・リテラシーとはメディアの情報

を主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし活用する能力、メディアを通じコミュニケーションする能力の3つを構成要素とする複合的な能力をいいます。

問 17

テレビや雑誌、インターネットなどのメディアが発信する表現について、あなたは日頃どのように感じますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女のステレオタイプな表現（「男性は仕事、女性は家事・育児」、「男らしく、女らしく」等）を固定的に発信している	16.9	15.6	18.3
2. 色で性別を分けるなど、興味関心や服装・外見等の個性を無視あるいは軽視している	12.9	11.9	12.9
3. 女性について、容姿や若さを強調している	53.6	60.0	47.1
4. 伝えたい内容と関係がないのに、女性の性的側面を強調するなど行きすぎた表現が目立つ	30.3	30.7	29.6
5. セクシュアル・マイノリティに配慮していない	14.0	14.1	13.8
6. 特に問題はない	23.6	18.5	28.8
7. その他	0.6	0.7	0.4
不明	6.6	9.6	2.9

問 18

あなたは、災害対策に男女平等の視点を生かすためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする	36.1	30.4	40.8
2. 災害対応や復興において女性の視点が活かされるよう、女性リーダーを育成する	41.6	41.5	40.4
3. 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等の視点を入れる	30.5	28.9	30.8
4. 性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を行えるようにする	76.0	82.2	68.8
5. 女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する	40.4	46.3	32.1
6. 消防職員・消防団員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	43.1	45.6	37.5
7. その他	2.4	1.9	3.3
8. わからない	7.3	3.7	11.7
不明	3.0	5.2	0.8

## ■ 男女間の暴力について

### 問 19

配偶者からの暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）といいます。また近年若い世代でも「交際相手からの暴力」（いわゆるデートDV）が問題となっています。あなたは親密な間柄で起きる次のような行動を、暴力にあたると思いますか。

（それぞれの項目について、番号に1つずつ○）

また、これまでに配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

（それぞれの項目について、アルファベットに1つずつ○）

※この調査では、「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦・元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。以下の設問も同様です。

		どう思うか				されたことがあるか			
		もど もど んな 場合 にあ た る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と 思 わ な い	不 明	何 度 も あ る	1. 2 度 あ る	ま っ た く な い	不 明
(1)平手で打つ	全体	65.0	24.5	1.5	9.0	2.1	7.7	79.6	10.7
	女性	64.4	22.2	0.7	12.6	1.1	7.0	79.6	12.2
	男性	67.1	27.1	2.1	3.8	2.9	8.8	81.3	7.1
(2)大声でどなる	全体	29.2	56.4	6.0	8.4	12.2	27.2	50.0	10.7
	女性	30.7	53.7	3.3	12.2	11.5	27.0	49.6	11.9
	男性	25.8	62.9	7.9	3.3	13.3	28.3	51.7	6.7
(3)配偶者等の 外出などを制限す る	全体	43.6	39.1	7.3	9.9	3.6	5.1	81.5	9.9
	女性	43.7	36.7	6.3	13.3	3.3	5.9	79.6	11.1
	男性	45.0	41.7	7.9	5.4	4.2	3.8	85.4	6.7
(4)交友関係や 電話・メールを 細かく監視する	全体	52.2	31.1	6.9	9.7	1.7	5.2	82.6	10.5
	女性	56.7	25.2	5.2	13.0	1.1	4.1	83.3	11.5
	男性	47.5	39.2	8.3	5.0	2.5	6.3	83.3	7.9
(5)何を言っても 長期間無視し続け る	全体	53.4	30.7	5.8	10.1	5.4	10.3	74.3	9.9
	女性	58.9	24.1	4.4	12.6	5.2	8.1	75.2	11.5
	男性	49.2	38.3	7.1	5.4	5.8	12.9	74.6	6.7
(6)相手の意に 反して性的な行為 を強要したり避妊 に協力しない	全体	73.0	14.0	2.4	10.5	2.4	5.6	81.3	10.7
	女性	74.8	11.5	1.1	12.6	3.7	8.5	75.9	11.9
	男性	73.3	17.1	3.8	5.8	1.3	2.5	88.8	7.5
(7)なぐるふりを しておどす	全体	60.5	26.2	2.6	10.7	1.9	6.4	80.9	10.9
	女性	62.6	21.1	3.0	13.3	1.5	6.7	79.3	12.6
	男性	60.0	32.1	2.1	5.8	2.1	5.8	84.6	7.5
(8)「誰のおかげ で生活できている んだ」「かいしょう なし」などと侮辱 的なことをいう	全体	62.0	24.7	3.7	9.6	3.2	9.2	77.5	10.1
	女性	64.8	19.3	3.3	12.6	3.7	8.1	77.0	11.1
	男性	60.4	30.8	3.8	5.0	2.9	10.8	79.6	6.7
(9)生活費を十分 に渡さない	全体	55.2	29.8	4.3	10.7	2.8	3.0	83.7	10.5
	女性	59.3	23.3	4.4	13.0	3.7	3.0	81.5	11.9
	男性	52.5	37.1	4.2	6.3	1.3	2.9	88.3	7.5



(問 19 のいずれかの項目で A または B と答えた方に)

問 19-1

あなたが受けた暴力について、どなたかに相談したことはありますか。  
(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 相談したかったが、できなかった	7.1	6.3	6.8
2. 相談しようとは思わなかった	59.8	55.5	65.8
3. 家族・親族に相談した	9.8	13.3	5.1
4. 友人・知人・同僚に相談した	13.8	17.2	11.1
5. 警察に相談した	1.2	2.3	0.0
6. 民間の支援グループに相談した	0.0	0.0	0.0
7. 民間機関（弁護士など）に相談した	1.6	2.3	0.9
8. 医師や看護師、カウンセラーなどに相談した	2.4	3.1	1.7
9. 市の相談窓口（女性総合相談、人権相談など）や子ども家庭支援センターに相談した	1.6	2.3	0.0
10. 配偶者暴力相談支援センター（東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザなど）に相談した	0.4	0.8	0.0
11. その他	7.5	6.3	8.5
不明	7.9	9.4	6.8

(問 19-1 で 1. または 2. と答えた方に)

問 19-2

相談しなかった理由としてあなたのお考えに近いものを選んでください。  
(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 相談するほどのことではないと思った	76.0	75.6	75.9
2. 相談しても無駄だと思った	15.6	12.8	18.1
3. どこに相談してよいのかわからなかった	3.0	2.6	2.4
4. 相談する人がいなかった	1.2	0.0	2.4
5. 他人を巻き込みたくなかった	5.4	6.4	4.8
6. 恥ずかしくて誰にも言えなかった	4.2	2.6	6.0
7. 世間体が悪いと思った	3.6	1.3	6.0
8. 周りの人に知られたくなかった	3.6	3.8	3.6
9. 自分にも悪いところがあると思った	18.0	20.5	16.9
10. 自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った	9.0	7.7	10.8
11. 自分が受けている行為が暴力だとは認識していなかった	3.6	5.1	2.4
12. 子どもに危害がおよんだり、仕返しを受けると思った	1.8	0.0	2.4
13. その他	3.6	3.8	3.6
不明	2.4	2.6	2.4

**問 20** あなたは下記の相談機関、相談窓口があることを知っていますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 市の女性総合相談	10.5	11.9	8.8
2. 市のひとり親相談	14.8	21.1	7.9
3. 市の法律相談	39.3	38.1	41.3
4. 市の人権相談	16.7	14.8	19.2
5. 男女平等推進センター「ヒューマンあい」	6.7	7.8	5.4
6. 子ども家庭支援センター	27.9	33.7	22.9
7. 東京ウィメンズプラザ	9.0	11.9	6.7
8. 東京都女性相談センター	8.1	10.4	5.4
9. 東京ウィメンズプラザ（男性のための悩み相談）	0.7	0.4	1.3
10. 警察	55.6	53.3	61.3
11. どれも知らない	21.5	18.1	23.3
不明	5.6	8.1	2.1

**問 21** あなたは配偶者間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）やデートDVの対策や防止のために、今後、武蔵野市の施策として特にどのような事業が必要だと思えますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする	49.6	46.7	51.7
2. 相談先や相談方法を記載したカードを、トイレなど、ひとりで手にとり、読みやすいところに配布し、気軽に相談できる入り口とする	34.1	39.6	28.8
3. 住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する	40.1	44.1	36.3
4. 被害の実態や被害者の支援策を多言語で市民に広く知らせる	15.0	14.1	16.3
5. 被害者を一時的に保護する施設（シェルター）を増やす	42.5	43.7	42.9
6. 被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援）などを行う	43.6	48.9	39.6
7. 被害者支援に携わる人（警察、医師、相談機関職員など）の意識向上を図る	42.1	43.7	40.4
8. 加害者に対する再発防止教育を行う	33.9	31.9	36.3
9. 学校で人権や男女平等に関する授業を実施する	36.9	36.3	37.9
10. 親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする	44.2	49.3	37.9
11. その他	2.6	1.5	3.8
12. わからない	7.3	5.6	8.8
不明	4.7	7.0	1.7

## ■ 市の施策について

問 22

あなたは、ここにあげる武蔵野市の取り組みを知っていますか。  
(それぞれについて○は1つ)

		内容まで 一応知って いる	聞いたことは ある	知らない	不明
(1) 武蔵野市男女平等の推進に関する条例	全体	0.9	22.8	70.4	5.8
	女性	0.7	23.0	67.8	8.5
	男性	1.3	21.7	74.6	2.5
(2) 武蔵野市第三次男女共同参画計画	全体	0.7	11.4	80.7	7.1
	女性	0.7	12.6	76.3	10.4
	男性	0.8	9.6	86.7	2.9
(3) 武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」	全体	1.7	14.6	76.6	7.1
	女性	1.5	14.8	73.7	10.0
	男性	2.1	14.2	80.4	3.3
(4) 武蔵野市男女共同参画フォーラム	全体	0.9	23.6	68.5	6.9
	女性	0.7	25.9	63.7	9.6
	男性	1.3	20.4	75.0	3.3
(5) 男女平等推進情報誌『まなこ』	全体	8.6	17.4	68.5	5.4
	女性	13.3	20.7	59.3	6.7
	男性	3.8	13.8	79.2	3.3
(6) 女性総合相談	全体	1.5	15.2	76.4	6.9
	女性	1.9	17.0	71.5	9.6
	男性	0.8	13.3	82.5	3.3

問 23

武蔵野市立男女平等推進センターでは、男女平等に関わる講座や男女平等推進情報誌『まなこ』の発行を行っています。あなたが講座や『まなこ』の特集記事として関心のあるテーマを教えてください。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女平等、人権、ジェンダー	20.4	17.4	24.2
2. 女性のためのキャリアプラン、起業、再就職支援	21.3	29.6	12.9
3. ひとり親支援、子どもの貧困	28.1	30.0	26.3
4. セクシュアル・マイノリティ、LGBT	11.0	10.0	12.5
5. 親子、家族関係、母娘関係	21.7	23.3	21.3
6. 仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス	36.9	39.6	35.8
7. 男性の家事・育児・地域活動参加	23.8	20.4	28.3
8. 女性の視点からみた防災	16.5	23.0	8.3
9. 配偶者間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）やデートDV（交際相手からの暴力）、モラル・ハラスメント、ストーカー	13.3	15.9	11.7
10. リベンジポルノや性犯罪、JKビジネスなどの性的被害	9.6	10.4	9.2
11. 男女平等の視点でみるメディア・リテラシー	11.6	11.1	12.5
12. リプロダクティブ・ヘルス、セクシュアル・ライツ	4.1	4.4	3.8
13. その他	3.0	2.2	4.2
14. 特に関心のあるテーマはない	18.5	12.2	25.4
不明	9.2	11.9	4.6

問 24

武蔵野市では、平成 29 年 3 月に、「男女平等の推進に関する条例」を制定しました。あなたはこの条例について、どのようにお考えですか。下記の項目それぞれについて、近いと思われるものに〇をお付けください。(それぞれについて〇は1つ)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそうは思わない	そうは思わない	不明
(1) 武蔵野市に男女平等の条例ができたことはよいことだ	全体	54.5	28.5	9.7	0.9	1.7	4.7
	女性	57.4	27.0	7.4	0.0	1.9	6.3
	男性	51.7	30.0	12.5	2.1	1.7	2.1
(2) 関連のパンフレット等があったら読んでみたい	全体	20.0	37.5	21.7	7.3	7.3	6.2
	女性	20.4	39.3	22.6	3.0	6.3	8.5
	男性	18.8	36.3	21.3	12.1	8.8	2.9
(3) 関連のセミナーやワークショップがあったら参加してみたい	全体	4.1	14.2	43.4	16.1	15.5	6.6
	女性	3.7	16.7	45.9	13.7	11.5	8.5
	男性	3.8	11.3	42.5	18.3	21.3	2.9

**問 25**

あなたは、男女平等推進についての学習や支援活動を行う団体に入ってみたり、また、市の男女平等に関わる事業に協力してみたりしたいと思いますか。(それぞれについて○は1つ)

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	あまり そうは 思わな	そうは 思わない	不明
(1) 男女平等に関して支援活動をした り、相互の助け合いをした り、学習活動をした りする団体が地域にあ ったら入ってみたい	全体	2.6	9.4	36.0	21.0	27.0	4.1
	女性	1.5	10.7	35.2	21.9	25.2	5.6
	男性	4.2	7.9	36.7	21.3	28.8	1.3
(2) 武蔵野市が男女平等推進の 施策検討や事業を行う際 に、市民委員や事業実施 の際のボランティア委員 などとして協力してみ たい	全体	1.7	9.0	32.8	24.2	28.3	4.1
	女性	1.1	9.3	31.5	25.2	27.0	5.9
	男性	2.5	8.8	34.2	24.2	29.2	1.3

**問 26**

あなたは男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実	19.3	14.8	24.2
2. 男女平等に関する相談窓口の充実 (性別に基づく差別的な取り扱いなどへの相談)	27.2	24.4	30.8
3. 男女平等推進などについての情報誌や図書、資料コーナーの充実	11.8	10.4	13.3
4. 女性のキャリアアップや起業など就業で役立つ訓練・相談や 再就職支援の実施	31.5	40.0	22.9
5. 「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の普及・啓発	21.0	20.7	22.9
6. 保育・介護制度の充実	54.7	57.4	53.8
7. 女性の生涯を通じた健康支援	21.7	27.8	15.0
8. ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実	24.7	23.0	27.9
9. 男性に向けての男女平等、男女共同参画に関する啓発	16.9	14.8	19.2
10. 地域コミュニティでの男女平等の推進	14.0	12.6	15.8
11. 防災におけるまちづくり(防災活動・震災準備)での 男女平等の推進	20.2	21.9	18.8
12. 学校での男女平等意識を育てる教育の推進	38.2	38.5	38.8
13. 配偶者間の暴力(ドメスティック・バイオレンス)への対策	20.4	20.0	20.8
14. 市の審議会などへの女性の登用推進	15.5	17.0	14.6
15. その他	1.9	1.9	2.1
16. 特にない	5.6	2.6	7.9
17. わからない	7.7	7.0	8.8
不明	5.1	7.0	2.1

**問 27**

あなたが日ごろから男女平等や男女共同参画について感じていることや、市の施策についてのご意見などがありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。お手数ですが、このアンケート調査票は同封の返信用封筒に入れ、10月16日(月)までに郵便ポストに投函してください(切手を貼る必要はありません)。

